435 肥大型心筋症のI-123-MIBG心筋シンチグラフィー 1．TL-201心筋シンチグラフィーとの比較

東野博，宮川正男，棚田修二，中田茂，村瀬研也，山田雅文，渡部真二，飯尾篤，濱本研（愛媛大学放射線科）藤原康史，濱田希臣，日和田邦男（同・第二内科）

I-123-MIBG及びTL-201の二核種同時投与同時収集法により肥大型心筋症例の心筋SPECTを，安静時初期像及び，晩期像を少なくとも1回，多い症例では3回実施した．同時にPLANAR像を撮像し，吸収を考慮した摂取率を算出した。初期分布像では，中隔肥厚型ではI-123-MIBG分布とTL-201分布が比較的一致する症例が多かったが，心尖部肥厚型では，一致しない症例が多かった．晩期分布像では，下壁から側壁にかけてのWASHOUTが速い症例が多かった．I-123-MIBGによるSPECTは肥大型心筋症の交感神経系の異常が示されると考えられた．

436 拡張型心筋症（DCM）におけるTl-201及びI-123MIBG(metaiodobenzylguanidine)の心筋SPECT像の対比検討

青木俊和、二神康夫、小西得司、浜田正行、中野 赳（三重大学第一内科）、山門亨一郎、竹田 寛、中川 毅（三重大学放射線科）、北野外紀雄（三重大学中央放射線部）、市原 隆（東芝メディカル那須）

Tl-201とI-123MIBGの二核種同時投与同時収集法による心筋SPECT像を用い、拡張型心筋症と健常例における心筋交感神経活性を検討した。 対象は拡張型心筋症9例、健常例9例であり、Tl-201とI-123投与初期、3時間後、6時間後に心筋SPECTを撮像し比較した。 健常者においては両核種共に均等に摂取されたが、拡張型心筋症ではTl-201像において集積低下領域が認められI-123MIBGではその範囲はより広く、又初期像に比べ3時間以降の画像でその差は明瞭となる傾向にあった。

437 拡張型心筋症における^{123}I-MIBG心筋摂取率の経時的変化

山門亨一郎，竹田 寛，中川 毅（三重大放），北野外紀雄（同放射線部），二神康夫，小西得司，浜田正行，中野 赳（同一内），市原 隆（東芝那須）

拡張型心筋症(DCM)8例・正常者6例を対象とし，Ishii-MacIntyreの方法により^{123}I-MIBGと^{201}Tlの心筋摂取率を投与後5時間まで経時的に求め比較検討した。 15分後におけるTlおよびMIBGの心筋摂取率は，正常群ではそれぞれ2.8±0.4%，2.2±0.4%であったのに対しDCM群では4.4±1.5%，3.3±1.2%であった。 Tl摂取率は正常群，DCM群共，時間と共に直線的に漸減した。MIBG摂取率は正常群では同様の直線的減少を呈したが， DCM群では早期(1時間まで)に急激に低下し，以後漸減する二相性を示した。本法は，DCMの病態生理の把握，重症度判定に有用であると考えられた。

438 I-123Metaiodobenzylguanidine(MIBG)シンチグラフィによる拡張型心筋症例(DCM)の検討

山上英利、西村恒彦、林田孝平、植原敏勇、三谷勇雄、汲田伸一郎、起塚裕美、岡 尚嗣、与小田一郎、林 真（国循セン・放診部）、永田正毅（同・心内）

MIBGとTlの二核種同時収集によりDCM 22例の心筋PlanarおよびSPECT像を得た。早期分布、晩期分布につき、左室心筋(A)、上縦隔(B)、肺野(C)、肝臓(D)のカウントをそれぞれ測定して、A/B、A/C、A/Dを算出し、左室造影によるEDVI、EF、臨床症状（NYHA分類）との相関をみた。MIBGでは、いずれも晩期分布において、EDVIとA/B、EFとA/D、NYHAとA/Cなど、両指標間に比較的強い相関が認められ（R=0.55～0.83）、MIBGの早期分布やTlではこれらの相関は弱かった。MIBGにより、Tlでは得られない心不全の重症度に関する情報が得られていると考えられた。

439 心筋症における^{123}I-MIBGを用いた心筋シンチグラフィ

森田浩一、忠岡信一郎※、福永仁夫、大塚信昭、小野志麿人、永井清久、三村浩朗、柳元真一、友光達志、鼠尾祥三※、沢山俊民※、森田陸司（川崎医科大学核医学科、循環器内科※）

肥大型心筋症（HCM）12例および拡張型心筋症（DCM）6例に、^{123}I-MIBGによる心筋シンチグラフィを施行した。安静状態で静注投与後、15分目および4時間目より撮像した。正面像にて心筋（H）および肺野（L）に関心領域を設定し、H/L比を比較したところ、H/L比はHCMにて高値を示した。早期像と後期像でH/L比を比較するとDCMでは著変を認めなかったが、HCMでは後期像にてH/L比は増加を示した。また、心筋からのwashoutはDCMにおいて亢進していることが示された。

440 肥大心におけるMIBG心筋イメージング
——自然発症高血圧ラット（SHR)を用いて——

佐合正義、西村恒彦（国循セン・放診部）

週令の異なるSHR(18w、33w、44w)を用いてMIBGの心筋集積とTlとの比較検討を行った。ピンホールイメージングではMIBG、Tlの心筋像に明らかな差異はなかった。組織計測ではMIBGの心筋集積はTlの約40%であった。オートラジオグラフィによる心筋内の集積変化はTlの均一な分布に対し、MIBGでは明らかな内膜側での集積低下を認めた。しかし、MIBGの心筋内膜の集積低下はWistar系ラット(17w、33w、44w）でも認められた。

Presented by Medical*Online